



きょうは おとうさんも さとしも
おやすみのひです。
おとうさんと さとしは ほんやに きました。
「おとうさん ぼく これが いい」
さとしが えらんだほんは
『ほしとせいざ』の ほんでした。
「へー ほしとせいざかー おとうさんも
こどものころ すきで よくよんでたなー」
さとしは おとうさんに 『ほしとせいざ』の
ほんを かって もらいました。



ほんやからでると あめが ふっていました。
おとうさんは かさを パサッと ひらくと
さとしを なかに いれました。

「おとうさんの かさって おおきいな。
よるの そらに いるみたい」
と、さとしは おもいました。

「ただいま！」
「おかえりなさい」

つぎのひ
ようちえんから かえって
きた さとしは
おとうさんの かさが
めに とまりました。





さとしは おとうさんの かさを
にわに もっていき、
バサッと ひらきました。

さとしは おとうさんの かさを
にわに もっていき、
バサッと ひらきました。



「よぞらの かくれがだ！」
さとしは おとうさんの かさを
じめんに おきました。
さとしは おとうさんに かってもらった
『ほしとせいざ』の ほんを もってきて
よみ はじめました。



さとしが ほんを よんでいると
スズメや にわのむしたちが
かさのなかに
はいつて きました。
「すてきな かくれがだね。
ぼくたちも いれて」
「いいよ」

てんじょうにいた クモが
なにかを みつけました。
「みて！
こんなところに あなが ある。
ほし みたいだね」
すると、 さとしは さげびました。
「ほっきょくせいだ！」





「クモくん、
そのほしは いっとうせいだから
もっと あかるくしよう」

「スズメさん、そのほしは
はくちょう座の デネブだから
もうすこし うえにしよう」

さとしは もっと よぞらを ほしで
いっぱいになろうと きめました。スズメや
むしたちに てつだって もらいながら ほんの
とおりに ほしを ふやして いきました。

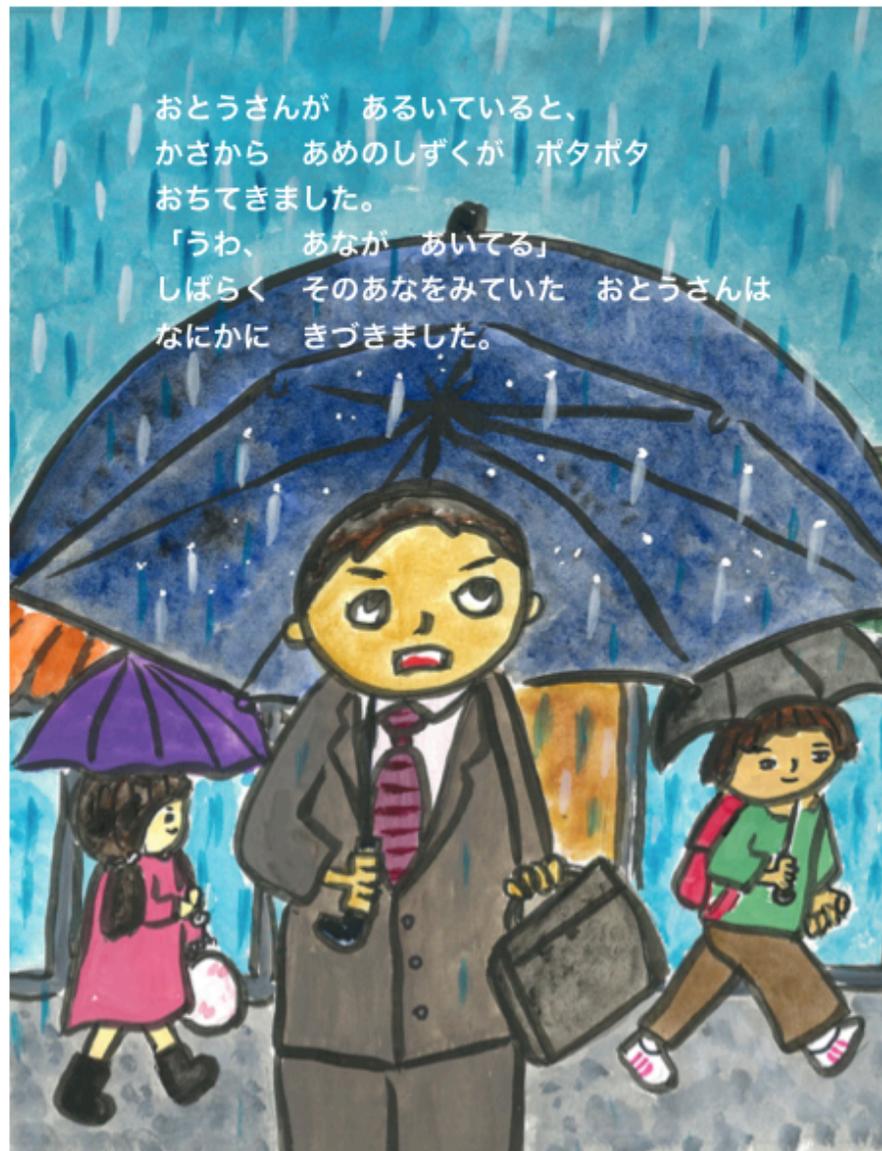
ただ くらかった だけの よそらが
ほし いっぱいの そらに かわりました。



つぎのあさ そとは
あめが ふっていました。
「おとうさん、
いってらっしゃい」
「いってきます」



おとうさんが あるいていると、
かさから あめのしずくが ポタポタ
おちてきました。
「うわ、 あなが あいてる」
しばらく そのあなをみていた おとうさんは
なにかに きづきました。





「あれは おとめ座の スピカだ。
こいぬ座の プロキオンに はくちょう座の
デネブもある。 しし座の レグルスと
こと座の ベガ。 牡牛座の アルデバランだ」
おとうさんは こどものころの じぶんに
もどったような きがして きました。
—おしまい—